

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 8 2005 年 4 月 30 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cnar.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■TANDBERG テレビ会議製品ラインナップが全て
MXPに対応

Tactical MXP

TANDBERG (日本支社 — 東京都中央区)は、「TANDBERG 1000 MXP」、「TANDBERG 1000 MXP for Cisco CallManager」、「Tactical MXP」、「TANDBERG 150 MXP」を発表。

タンバークが当初 MXP 対応製品を発表・出荷を開始したのは、昨年 7 月。今回上記製品が MXP に対応することにより、同社テレビ会議製品のラインナップが全て MXP 対応端末となった。(CNA レポート・ジャパン Vol.6 No.11 2004 年 7 月 15 日号)また、今回 Tactical MXP を日本市場では初めて発表。

今回上記テレビ会議製品が MXP 化することにより、同社が 2 月に発表したファイヤーウォール、NAT 越え並びに IP テレビ会議でのダイヤリングを簡易化するソリューション「Expressway」に対応する。

Expressway を導入することにより、ユーザーとしては、同社のゲートキーパー的な役割も持つ「Border Controller」をグローバルネットワークに設置する。それにより、エンドユーザーは煩雑な設定作業なしで、IP テレビ会議端末を社内ネットワークに接続すると、簡単にファイヤーウォール、

NAT 越え、そして相手先にコールできるテレビ会議接続が行える。

Border Controller の仕組みとしては、IP テレビ会議端末に必要な情報を登録し、その端末が社内 IP ネットワークに接続されると、その端末とグローバルネットワークにある Border Controller とが、バックグラウンドで通信しその端末の存在を登録する。エンドユーザーにとっては端末登録のための煩雑な設定などは不要。Border Controller の IP アドレスをテレビ会議端末側に登録してネットワークに接続するのみ。

また、Border Controller は、企業内であれば、1 台、企業間であれば、それぞれの企業に 1 台ずつあれば、それぞれの Border Controller が連動し IP テレビ会議端末情報などの交換を行う。



Expressway を実現する Border Controller

通常の IP テレビ会議接続では、その都度 IP アドレスを入力するのは煩雑であり、グローバル IP アドレスの数の制限もあるため、1 人 1 台割り当てるのは困難である。しかし、Border Controller が提供する URI ダイヤリング (hanako@tandberg.net などの表記方法) を使うことにより、他の IP テレビ会議端末をエンドユーザーはどこからでも容易にかつ一意に識別することができる。

A と B の IP テレビ会議端末がある状況で、一方が他方にコールする場合は、hanako@tandberg.net などを入力することにより、簡単に相手先にコールすることができる。「特にテレビ会議がそれぞれのデスクトップに設置されパーソナル化が進むと、その都度 IP アドレスを入力してコールするのは煩雑。URI ダイヤリング方法はその点をシンプルにする。また、自社で使用している IP アドレスを公開しなくて済むため、安全面でも優位性がある。」(TANDBERG 日本支社 エンジニアリン

グ・マネジャー 原口 雅志氏)

ファイアーウォール、NATを超えたAとB間のIPテレビ会議の接続は、端末間の接続の確立から接続中、そしてその接続が終了するまで、このBorder Controllerがその役割を司る。そのため通信時はBorder Controllerを経由した通信となる。その際に、Border Controllerと端末間は特殊なプロトコルを使い通信する。

ただ、MXPに対応した同社のテレビ会議端末は、そのプロトコルをサポートしているため、直接Border Controllerに通信が出来るが、その他一般のH.323 IPテレビ会議端末については、直接Border Controllerに通信ができない。この場合、TANDBERG製のゲートキーパーを使用することで一般のH.323 IPテレビ会議端末でも、ファイアーウォール超え通信が可能になる。

また、今回発表された製品の中で特長的なところについて概観する。

まず、TANDBERG 1000 MXP は、(1)画面上に相手の映像とPCのファイルなどを同時に表示できるDuo Video機能をサポート。(2)PC ファイルを XGA レベルで表示することが可能。(3)LED 表示機能が端末向かって左下に付いて、電源 ON 状態や通信状態などを色で表示。また、ヘッドセットのジャック位置が、従来では下側にあったのを、向かって右側横側面に位置を変えた。ジャック差し込みの容易性を考

えての位置替えだが、

2.5mmのヘッドセットとマイク一体型のもので使えるという。(写真左) :



TANDBERG 1000 MXP)

そして、モニター上部に内蔵する固定カメラの周りに付いているカメラフォーカスリングの色が従来の黒からシルバ

一色になった。

TANDBERG 1000 MXP for Cisco CallManager は、米シスコシステムズ社が提供する呼制御サーバーCallManager をサポートした機種。シスコの SCCP(スキニープロトコル)にも対応。SCCP に対応することにより、H.323 だけではできなかった、テレビ会議端末から保留や転送などが行える。(CNA レポート・ジャパン Vol.6 No.4 1 2004年2月29日号)



また、**TANDBERG 150 MXP(写真左)**は、ソフトウェアバージョンアップにて MXP に対応、合わせて Expressway ソリューションもサポート。

TANDBERG G 150 MXP は、

デスクトップ用のテレビ会議端末で、持ち回りができるポータブル性を備えている。8.4インチLCDディスプレイ搭載、IPは、512kbpsまでサポート。H.323はもとよりSIPにも対応。既存のTANDBERG 150 ユーザーは、無償でMXPにアップグレードが可能。

TANDBERG 1000 MXP や TANDBERG 150 MXP は、デスクトップに容易に置けるため、テレビ会議のパーソナル化を推し進める。「Border Controller と組み合わせて使えば、簡単にIPテレビ会議環境が構築でき、テレビ会議端末を企業 (次ページへ続く)



VCON

<広告>イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語):
 -日本地方自治体等導入実績
 -PC タイプのテレビ会議システムからセフトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。
H.323 対応 PC 用会議システム vPoint HD H.264 対応
<http://www.vcon.com>

<AD>

内だけに置くだけでなく、SOHO や自宅にも置ける、いわばどこにでもオフィスが作れるような状況が整う。」(同原口氏)

さらに、MXP のテレビ会議端末は、SIP をサポートしている。そのため、マイクロソフトの Microsoft Office Live Communication Server 2003 と 2005 に両方に対応している。LCS の Messenger と TANDBERG の SIP 対応のテレビ会議端末が通信できる。



TANDBERG 1000 MXP for Cisco CallManager 用リモコン

Tactical MXP は、TANDBERG Codec 3000 MXP を搭載した、ポータブルでコンパクトなテレビ会議システム。建設現場、製造現場、防衛出動や内部メディアコミュニケーションに最適な完全一体型ワイヤレス可能なシステムとなっている。今回 MXP 対応に合わせて、日本市場にも初めて販売開始する。

タンバーク社製品については、製品購入時に 3 年間の無償保証が付く。今回の製品の出荷開始は、4 月。価格はオープンプライス。

■ゼッタテクノロジー、P2P タイプのテレビ会議システム発売

システム開発のゼッタテクノロジー(東京都千代田区)は、サーバーが不要な P2P 接続によるテレビ会議システム「SmoothCom」を 5 月 12 日発売。高画質を実現する専用ハードウェアと PC ソフトウェア両方の強みを組み合わせたハイブリッド型のテレビ会議システム。

SmoothCom は、各拠点間を P2P で相互接続するため、別途多地点接続装置(MCU)やサーバーが不要。PC と専

用ハードウェア(高速動画エンコード BOX:17.5cm x13cm x 4.4cm))があれば簡単に導入できる。PC 画面上で高画質な映像とデータを同時に表示できるため、会議に必要な資料をその場でリアルタイムに提示することが可能。これにより事前配布の紙資料などが不要になる。

必要構成は、専用ハードウェアにカメラ、PC にマイク、スピーカーを取り付け、IP ネットワークに接続するだけで設置は可能。

SmoothCom の主な機能としては、(1)起動から終了までマウスボタンだけの簡単操作、(2)多地点接続装置(MCU)やサーバーが不要、(3)可変ビットレート(動きのある映像のみ転送)や映像の圧縮率、画質調整が可能のためネットワークに負荷を与えずに会議を行える、(4)ファイル共有、アプリケーション共有が可能、(5)PC 画面のリアルタイム転送機能、(6)描画ツールや拡大表示、(7)最大同時接続は P2P 接続で 9カ所まで可能。(8)議同時並行、途中参加、途中退席が可能、(9)テレビ会議の音声のみを傍聴することが可能(ネットワーク帯域が細いところでの参加に)、(10)1つのマイクで 10 人から 20 人規模の会議室に対応。

価格は、1拠点 70 万円から、オブザーバー機能(クライアント PC)1ライセンスは、5 万円から。

(CNA レポート・ジャパン Vol.7 No.3 2005 年 2 月 15 日号)

ショートニュース項目

◆NTTコミュニケーションズ(東京都千代田区)の電話会議サービス「クリアカンファレンス」は、英語と中国語による電話ガイダンス及び Web 利用画面における表示言語に中国語(簡体字、繁体字)サポートを追加。また、PC を使ったファイル共有機能(従来の Word、Excel、PowerPoint など)に、PDF ファイル共有機能を追加。(英語画面は、2002 年 1 月より提供中)。提供開始は、4 月 22 日から。クリアカンファレンスは、現在 500 社以上の企業が利用している。

◆仏自動車メーカールノー社は、イスラエルのテレビ会議メーカー VCON 社のテレビ会議システムソフトウェア vPoint を 500 ライセンスと、ビデオ PBX 機能を提供する Media Exchange Server (MXM) の導入を決定したと VCON 社発表。

◆電話会議サービス(MTC カンファレンスコール)を提供する丸紅テレコム(東京都千代田区)は、フランスの多地点会議

サービス事業者でグローバルに展開するジェネシス・カンファレンシング(東京都港区)と4月に提携、日本でのビジネス展開で協業する。

◆トーマンサイバービジネス(東京都品川区)の多地点ビデオ会議システム「Visual Nexus」は、NTT 東日本・西日本のテレビ電話端末「フレッツフォン VP1000」に対応したと発表。Visual Nexus とフレッツフォンを組み合わせた低コストで実現可能な多地点ビデオ会議システムを構築することできるようになる。

◆米 Pixelworks 社は、Equator Technologies 社の買収を発表。米 Pixelworks 社は、ディスプレイ用のプロセッサなどを開発。Equator 社は、1996年に設立された社員数75名の企業。同社はビデオストリーミングやイメージ処理用のプロセッサチップなどを開発しており、テレビ会議メーカーなどに、テレビ会議端末用のチップなども供給している。IPTV やデジタルテレビ向けの開発を強化するのが買収の目的。

◆マクニカ(神奈川県横浜市)とマーキュリーシステム(千葉県柏市)は、2D映像から3D映像にリアルタイムに変換するセットトップボックス「3D MAVE」を共同開発。原画像への細工が不要で、静止画も3D映像に変換、立体感の強弱の調整などが可能。市販されているほとんどの3Dディスプレイに対応。

◆米ポリコムは、電話会議の参加者が簡単にPC上のコンテンツを共有できる機能を提供する新製品「Polycom QSX」を発表。電話会議端末、プロジェクタ、インターネット接続と接続することにより、コンテンツ共有機能を提供する。同時参加を15名までサポートし、Polycom QSXを設置した拠点は、その拠点に設置されたプロジェクタなどでそのコンテンツを表示できるが、Polycom QSXがない拠点では通常のウェブブラウザでコンテンツを見ることができる。

◆米 LifeSize Communications 社は、テレビ会議端末、電話会議端末、ゲートウエイ、運用管理ソフトの新製品を発表した。テレビ会議端末としては、ハイ・デフィニション対応の会議室向け「LifeSize Room」、パーソナルデスクトップ向け「LifeSize Exec」、また、ゲートウエイ製品として「LifeSize Networker」、ビデオマネージメントソフトウェアとして、「LifeSize Control」を、電話会議端末として、「LifeSize Phone」をそれぞれ発表。海外展開として、ロンドンと香港

にそれぞれ事務所を設立した。(CNA レポート・ジャパン Vol.6 No.9 2005年5月15日号、Vol.6 No.12 2005年7月31日号、Vol.6 No.17 2005年10月31日号)

セミナーレポート

HP オープンセミナー

「ワークフローを変革するビジネスコミュニケーションのご紹介」

平成 17 年 3 月 25 日(金) 13:30~16:00

主催: 日本ヒューレットパッカード

出展: 丸紅テレコム

丸紅テレコム(東京都千代田区)は、日本ヒューレットパッカード(東京都品川区)と共同で、3月25日都内で「ワークフローを変革するビジネスコミュニケーションのご紹介」と題したセミナーを開催。約50社が参加し会場のセミナールームはいっぱいになった。



(展示コーナー)

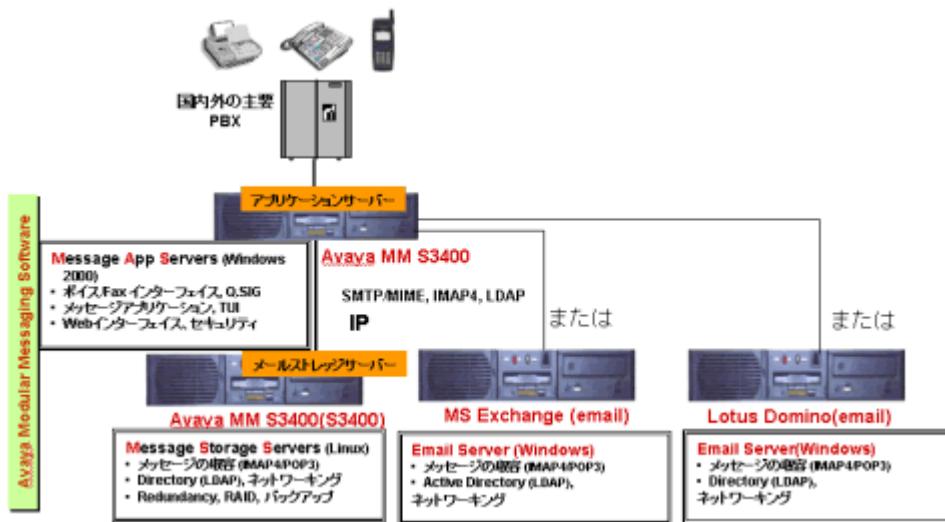
今回のセミナーでは、丸紅テレコムが提供するビジネスコミュニケーションソリューションを展示し、セミナーセッションではその

ソリューション概要や企業導入でのメリット、そして丸紅テレコムが今までに取り組んできたボイスメッセージング事業の強みなどの紹介があった。また、日本アバイア(東京都港区)からは「Avaya Modular Messaging」の紹介、日本ヒューレットパッカードからは、社内での会議システムの利用事例の紹介などもあった。日本 HP では、音声会議については、1999年から導入、Cisco MeetingPlaceも2000年から活用しているという。物流、サポートサービス、コンサルティング、その他の部門で広く会議システムが利用され、音声会議も MeetingPlace でのデータ会議も月間15万から20万分使用しているという。ユーザーの利用形態に応じて予約会議ポートの制限や簡易マニュアルなどを作成しているという。

丸紅テレコムは、会議システム系を含めた幅広いさまざまなコミュニケーション製品を取り扱っており、多様なユーザーのニーズに合ったソリューションを提供している。「さまざまなコミュニケーション製品ラインナップを取りそろえ、長年の実

績に基づいた最適な場面で企業に役に立つコミュニケーションソリューションを、コンサルティングや、安心して利用してもらえる各種サポートサービスなどワンストップで提供したい。」(丸紅テレコム ソリューション事業本部ソリューション営業部 部長代理 桜井正春氏)

今回具体的に展示された製品としては、AVAYA Modular Messaging (Octel200 後継機でユニファイドコミュニケーションシステム)、Cisco MeetingPlace、IP ビデオ会議システム「Visual Nexus」、高精細 50V 型プラズマハンドライティングシステム「Cyber Conference System」、高性能電話会議端末「Clear One Max EX」、CCD カメラ搭載書画カメラ「WolfVision Visualizer」等をセミナー会場内に展示、セミナー聴講者にデモなどを行った。



AVAYA Modular Messaging システム構成

丸紅テレコムは、セミナーで現在の企業におけるワークスタイルでの課題点を指摘し、(1)移動時間や出張コスト、メールの非効率性、電話取り次ぎなどによるロスなどによる貴重な時間の浪費、(2)迅速な判断が求められるビジネスシーン、(3)チーム内での情報共有・伝達に時間を要したりすることによる、コミュニケーション不足、及び機動力の低下、(4)障害発生時などに複数社員間のコミュニケーションを迅速・容易・確実にできないことによる復旧の遅れ、などの課題があるとみる。これらの課題を解決するには、今後コミュニケーションシステムなどの活用により、効率的なコミュニケーションを図る重要性を説明。

同社では、現在コミュニケーションサービス事業としては、(1)メッセージングシステム、(2)遠隔会議システム、(3)電

話会議サービスなどを提供している。

メッセージングシステムでは、ボイスメールシステムである「AVAYA Octel 200/300」と、ユニファイドメッセージシステムの「AVAYA Modular Messaging」などを、会議システム系では、電話 Web 会議システムの「Cisco MeetingPlace」、H.323 準拠のビデオ会議システム「Visual Nexus」、ブロードバンド会議システム「Globiz21」など、そして、サービスとしては、マネージドサービス、メンテナンスサービス、モバイルサービスと、製品提供だけでなく各種サービスを提供することにより、ユーザーの利便性を向上させるワンストップサービスを提供している。

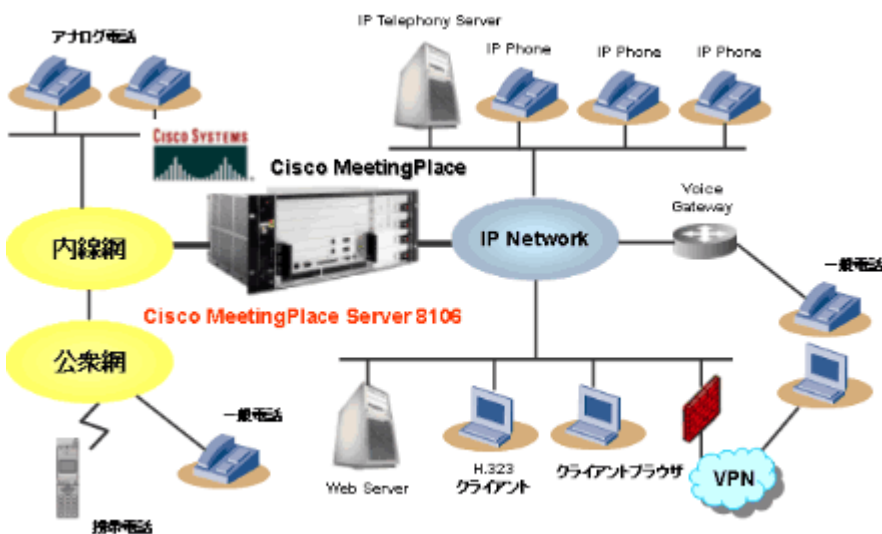
Octel Message Sever は、世界 40 カ国で利用、20 言語以上のユーザーインターフェイスをもつ。丸紅テレコムでは、5 万ライセンス(ボイスメール)以上の提供をしている。また、オープンプラットフォームのため国内外の PBX とのインテグレーションが可能。機能としては、メールボックス間同士のメッセージ送信、受信、返信、転送が行え、また一斉同報、着信通知、留守番電話、メッセージ着信ランプ、シングルデジタルメニューなどの機能がある。

AVAYA Modular Messaging は、Octel、Intuity Audio などの戦略後継機。世界 40 カ国以上、20 言語以上をサポート、6 ヶ月で 2000 システム以上が稼働。Aria、Audix、Serenade などの業界標準 TUI をサポート。Linux ストレージ、Exchange、Domino とのインテグレーション、オープンプラットフォームのため国内外の PBX とのインテグレーションが可能。既存ボイスメールシステムとのネットワーク、マイグレーションが可能。

電話 Web 会議システム Cisco MeetingPlace。現在全世界 430 社 800 システムが稼働。年間 10.7 億分の会議時間が行われているという。日本では、1000 ライセンス、月間 200 万分以上の利用状況。携帯、電話もしくは PC から会議に参加できる。低帯域による運用が可能で、電話会議の機能としては、n 対 n の通常の会議形式と、1 対 n の会議形式のレクチャー形式に対応。ウェブ会議機能としては、プレゼンテーション、アプリケーション共有、ホワイトボード共有などがある。さらに、

豊富な管理機能を持った管理ツールを装備。「電話会議・ウェブ会議が品質も高く安定して使えるシステム。人数的な制限がないため、全社的に使ってほしいという企業に向いている。日立製作所様やフェデラルエクスプレス様などでご利用いただいている。」(丸紅テレコム ソリューション事業本部 ソリューション営業部 コミュニケーションサービス課 課長補佐 久保田 信博氏)

Cisco MeetingPlace ネットワークイメージ



ビデオ会議システム Visual Nexus は、現在 60 社、顧客ライセンス数 1000 を超える実績があるという。H.323 に準拠しているため、既存の H.323 テレビ会議端末とも通信が可能。トーマンサイバービジネス(東京都品川区)が開発。予約機能、ドキュメント共有、アプリケーション共有、動画ファイル

共有など機能があり、Firewall/NAT 環境でも簡単に H.323 のビデオ会議ネットワークの構築が行える。

また、遠隔会議用の書画カメラ周辺装置とし WolfVision の Visualizer (写真左) は、高精細な CCD カメラを搭載、ハンドライティングミーティングが行える電子ボードを搭載し TeamToTeam 型



の会議に最適なパイオニアの Cyber Conference System EV、さらに、ClearOne の電話会議端末の紹介があった。

丸紅テレコムは、20 年以上のボイスメールにおける実績がある。米 VMX 社が開発した VOICE MESSAGE EXCHANGE システムの総輸入販売代理店契約を 1983 年丸紅株式会社

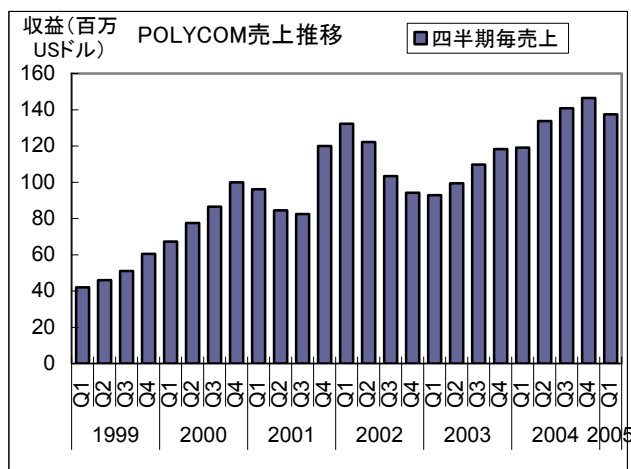
が締結。84 年に日本ボイスメール株式会社設立。85 年に東京に第一号商用機を設置。93 年に丸紅テレコム株式会社設立とともに日本ボイスメールの営業権を譲受。この頃からサービス提供

ベースからインストールベースへ転換を行ってきて今日に至る。2005 年 3 月現在ボイスメール利用顧客社は、約 300 社。設置ベースのポート数が 3,000 ポート。メールボックス数は、50,000 ボックスの実績を持つ。「長年のコミュニケーションでの実績をもとに、今後の丸紅テレコムが提供するボイスメッセージング、会議システムなどにも力を入れる考えだ。」(丸紅テレコム ソリューション事業本部ソリューション営業部コミュニケーションサービス課長 岩本

幸夫氏)
(セミナーレポート終わり)

2004 年第四四半期業績発表 2005 年 1 月-3 月期

■ポリコム

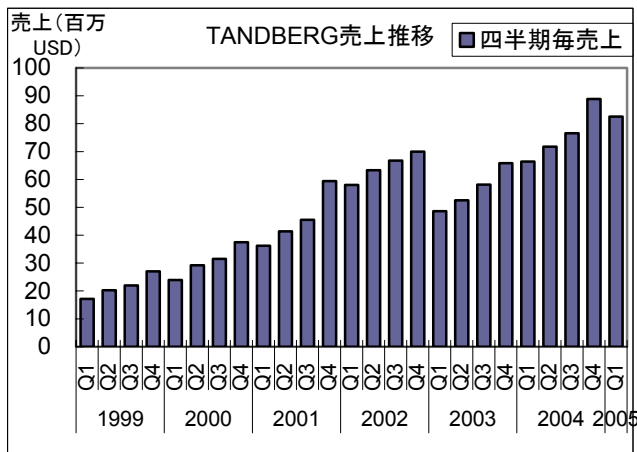


米ポリコム社の発表による業績発表によると、2005 年第一

四半期(1月-3月)の売上は、1億3750万USD(約143億9000万円)。2004年第四四半期よりは若干減となったが、前年同期比で15.4%の売上増であった。

売上構成では、テレビ会議端末が55%、ネットワークシステムが24%、音声会議端末が21%。

■タンバーク



ノルウェーのテレビ会議メーカータンバーク社2005年第一四半期(1月-3月期)の業績は、8250万USD(約86億4000万円)。

季節的な変動要因から2004年第四四半期から若干売上は減少したが、前年同期比では、22%の伸びを示した。テレビ会議端末の売上が全体の75%、ネットワーク機器が12%、サービス関係が13%。英国政府やグローバル企業など大手が導入した。

第一四半期はアジア地区では、競争の激化などの市場状況もあったが、過去の業績状況からしても、ビジネス的に弱い四半期なため、第二四半期以降業績は上向いてくると同社では見る。

同社では、今後「10億USDビジョン(企業)」を掲げ一層の経営力の強化を図っていく。2004年現在売上の約3倍強の売上をあげる企業に成長させていく計画。

イベント情報

国内

■IPテレフォニー&携帯ソリューション2005-TV会議フォーラム2005

日時:2005年5月19日-20日
場所:サンシャインシティ文化会館

主催:日経BP社
詳細:テレビ会議などを含めたIP&携帯展示会&セミナー。
詳細:<http://expo.nikkeibp.co.jp/iptel/>

TV会議フォーラム2005 基調講演

5月19日基調講演

「企業イノベーションを生み出すビジュアル・コミュニケーション活用法」

三菱総合研究所

情報通信政策研究部長 佐野 紳也氏

5月20日基調講演

「TV/Web 会議システム利用上の技術的課題とその解決への道筋」

早稲田大学大学院

理工学研究科 客員教授 大久保 榮氏

海外

■China Multimedia Video Communications

日時:2005年6月23日~6月25日

場所:中国北京市中国国際展覧センタ2号館、3号館

詳細:<http://www.cmvc.com.cn/>

*会議システム専門の展示会。

BCS Tokyo 2005 情報

お陰様で、4月29日現在、25社のご出展企業様を確認しております。BCS事務局を代表いたしまして皆様のご協力重ねて御礼申し上げます。準備を開始いたしましたので、募集は終了させていただきました。

公式ホームページは6月頭には開設される予定です。

CNAレポート広告掲載募集&ケイ・オフィス事業概要

5月からのCNAレポート広告サービスの内容を見直しました。

前よりはわかりやすく書き直し、サービス内容も変更しました。

http://cnar.jp/home/CNAarchive/cna_ad.pdf

よろしくご検討いただければ有り難いです。

また、弊社ケイ・オフィスの事業概要もまとめました。

<http://cnar.jp> の「CNAとは」にあります。

編集後記

最近、米LifeSize、ポリコム、ソニー、Huaweiとテレビ会議のハイ・デフィニション化した製品が発表されたり、計画されていたりしますが、今年後半から来年にかけてHD化が業界のキーワードになってくるのではないかと思います。

編集長橋本は、最近日本遠隔医療学会に入会させていただきました。よろしくお願ひ致します。

日本遠隔医療学会:<http://square.umin.ac.jp/jtta/>

CNAレポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 k@cna.jp (CNAレポート・ジャパン)
Vol 7. No.8 2005年4月30日号(終わり)次号 Vol 7. No.9は、2005年5月15日の発行を予定しております。